

1. 開催概要

会議名：IAEA/UNESCO Technical Meeting on Groundwater Contamination following the Fukushima Nuclear Accident

(仮訳)福島原発事故後の地下水汚染に関するIAEA/UNESCO技術会合

開催場所：IAEA本部(オーストリア共和国ウィーン市)

開催期間：2014年9月8日～10日

2. 開催趣旨

福島第一原発やその近傍における地下水と表流水の汚染の状況について議論するとともに、チェルノブイリ(ウクライナ)、セラフィールド(英国)、ハンフォードとブルックヘブン(米国)など他の地域における経験の共有を目的とする。

3. 日本側参加者(福島第一原発サイト内関係)及び説明事項

(参加者)

汚染水処理対策委員会 大西有三委員長、西垣誠委員、丸井敦尚委員
地下水・雨水等の挙動等の把握・可視化サブグループ 三枝博光委員
東京電力 萩原義孝課長、資源エネルギー庁 豊口佳之企画官
※IAEAのほか、ウクライナ・英国・米国・カナダの専門家が参加。

また、サイト外の調査に関する日本の専門家も参加。

(説明内容)

- ①福島第一原発の概要、政府の取り組み方針(豊口企画官)
- ②汚染水対策の概要(大西委員長)
- ③具体的な取り組み、進捗状況(萩原課長)
- ④福島第一原発周辺の地形・地質(丸井委員)
- ⑤地下水の解析モデル(西垣委員)
- ⑥解析モデルに対する評価(三枝委員)



IAEA本部(ウィーン)

4. 概要

- 日本の甚大な努力が、現場を比較的安定的な状況に導き、維持することに寄与していることについて認識を共有。
- 凍土壁、地下水バイパス、サブドレン、フェーシング、海側遮水壁、ALPSといった、建屋への地下水流入を抑制する重層的な対策や、汚染水処理のための複数の対策は適切なものである。
- 処理後も残るトリチウム水の扱いについても、様々な選択肢が検討されており、目下いくつかの選択肢について、実現可能性についてのより詳細な検討がなされている。
- 地下水バイパス等の対策を決定する過程で、漁業者や地元住民といった利害関係者に対する努力がなされており、くみ上げ水の排水については、東京電力が、放射性核種ごとに極めて低い運用目標値を設定している。
- 評価、計画、プログラムに関する国民の信頼を構築するための継続的な努力が、透明性のあるコミュニケーション、科学的な根拠に基づく分析、徹底した測定の実施、進捗の点検を通じてなされる必要がある。
- IAEAは、福島第一原発における日本政府の取組に関して、以下の支援を行うことが考えられる。
 - I. 海外の専門家による、地下水解析モデルの評価のための現地調査
 - II. 地下水問題全般を扱ったワークショップ・セミナーの開催

※全文(英文)は、IAEAのホームページを御参照下さい。(http://www.naweb.iaea.org/napc/ih/documents/other/Meeting_Summary_%20Final.pdf)